

領域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅰ	単位(授業時間/時間数)	1(28/30)
開講年次	2年次	開講時期	前期	後期	通年
担当講師名	非常勤講師・専任教員	講師所属	福岡水巻看護助産学校		

授業のねらい

女性のライフサイクルにおける最も健康上の支援が必要な周産期の中で、妊娠・分娩期のメカニズムとその特徴を理解する。また、妊産婦の身体的・心理的・社会的変化に適応するためのセルフケア、健康増進やマイナートラブルおよび家族への援助を学ぶ。

授業目標

1. 妊娠・分娩期における身体的・心理的・社会的変化を述べるができる。
2. 妊娠・分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助を述べるができる。
3. 妊娠・分娩期にある母子の健康状態を観察・評価する為の看護技術を実施することができる。

授業概要

1. 妊娠期における看護 (14時間)
 - 1) 妊娠期の身体的特性
 - (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育とその生理 (3) 母体の生理的变化
 - 2) 妊娠期の心理・社会的変化
 - (1) 妊婦の心理的特徴 (2) 妊婦と家族および社会
 - 3) 妊婦と胎児のアセスメント
 - (1) 妊娠の診断 (2) 胎児の発育と健康状態の診断 (3) 妊婦の健康診査 (4) 妊婦と胎児の健康状態アセスメント (5) 妊婦と家族の心理・社会面のアセスメント (6) 妊娠期アセスメントの重要性
 - 4) 妊婦と家族の看護
 - (1) 妊婦の保健指導 (2) 妊婦の保健指導の実際 (3) 親になるための準備教育
2. 分娩期における看護 (14時間)
 - 1) 分娩の要素
 - (1) 分娩とは (2) 分娩の3要素 (3) 胎児と子宮および骨盤との関係 (4) 分娩の機序
 - 2) 分娩の経過
 - (1) 分娩進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛 (3) 胎児に及ぼす影響 (4) 産婦の心理的・社会的変化
 - 3) 産婦・胎児・家族のアセスメント
 - 4) 産婦と家族の看護
 - 5) 分娩期の看護の実際
 - (1) 分娩第1期の活動期 (2) 分娩第1期活動期の終盤 (3) 分娩第2期の看護 (4) 分娩第3・4期の看護

<演習> 妊婦体験、腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診、児心音測定、分娩監視装置の取り扱い、妊婦体操指導、産痛緩和、胎盤測定

【担当からのメッセージ】

妊娠・出産をイメージすることは難しいかもしれませんが、解剖生理学Ⅳ(生殖器)で学んだ知識を活かし、新しい生命の誕生における支援のあり方を積極的に学びましょう。

授業の進め方：講義、グループワーク、演習

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論(医学書院)

参考図書

マタニティ診断ガイドブック(医学書院)

看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術(メヂカルフレンド社)

評価方法

最終時 客観式テスト(50点 50点) 試験時間は時間数に含む。